

第29回安全大会

株式会社 似鳥工務店
協力会グループNTS

令和3年6月



第29回安全大会 目次

- ▶ 全国安全週間 概要 . . . P.2
- ▶ 令和3年度協力会グループNTSスローガン . . . P.3
- ▶ 労働災害についての資料 . . . P.4~P.6
- ▶ 安全パトロール結果報告 . . . P.7
- ▶ 熱中症予防×コロナ感染防止 リーフレット

令和3年度 全国安全週間スローガン (令和3年7月1日～7月7日)

持続可能な安全管理 未来へつなぐ 安全職場

- ▶ 全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人名尊重」という基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられ、今年で94回目を迎えます。
- ▶ この間、事業場では、労使が強調して労働災害防止対策が展開されてきました。この努力により労働災害は長期的に減少しており、令和2年の労働災害による死亡者数は3年連続で過去最小となる見込みです。
- ▶ 一方、休業4日以上労働災害による死傷者数は、高齢者の労働災害、転倒災害や「動作の反動・無理な動作」による労働災害が年々増加していることに加え、新型コロナウイルス感染症の罹患による労働災害の増加により、平成14年以降で最多となる見込みです。
- ▶ このような状況において労働災害を減少させるためには、働く高齢者の増加等の就業構造の変化や新型コロナウイルス感染症の感染に伴う社会情勢の変化等に対応し、将来を見据えた持続可能な安全管理を継続して実施していく必要があります。
- ▶ これにより、すべての働く方が安心して安全に働くことのできる職場の実現を目指すことを決意して、令和3年度全国安全週間は、このスローガンの下で取り組んでいきます。

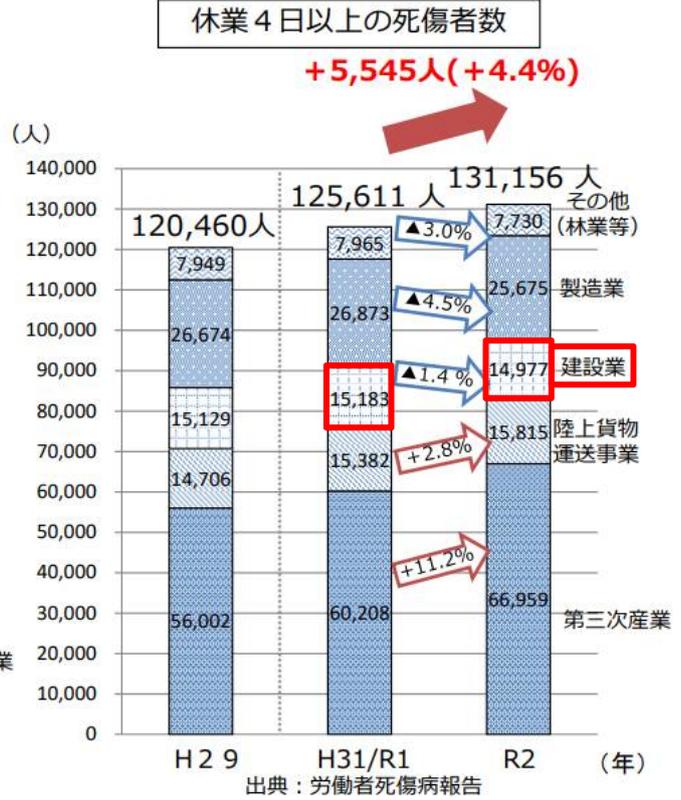
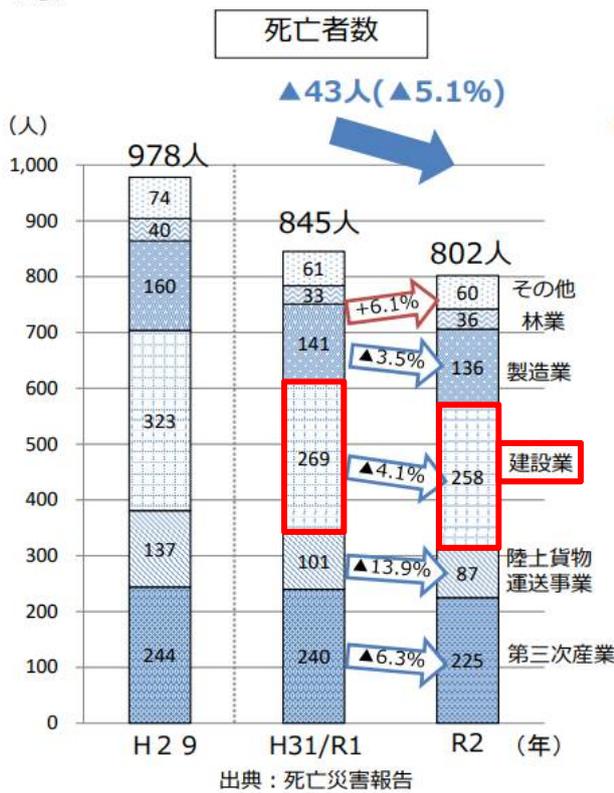
『 距離はあれども 心はひとつ 仲間とつくる 安全職場 』

新型コロナウイルス感染症という言葉は初めて目にしてから久しくなります。欧米では国によってすでにロックダウンの解除、ワクチン接種者であれば国外への渡航、条件付きとはいえマスク不要の生活が認められてきましたが、日本ではようやくワクチン接種が始まったものの、まだ以前のような生活をするのは難しい状況です。我々建設業はリモートワークとはいかず、現場でたくさんの人々と共に建物を造っていく仕事であるため人との接触は避けられません。マスクをし、可能な限り会話を避けていくとなるとコミュニケーションが図れず、安全に対する声掛けや注意喚起がおろそかになってしまう危険があります。

マスクを着用し必要な距離は保ちながらも、共に働く仲間とは心をひとつに安全な職場を作り、品質の高い建物を造るという目標に向かっていくことは建設業における「新たな生活様式」なのではないでしょうか。

令和2年 業種別労働災害発生状況（確定値）

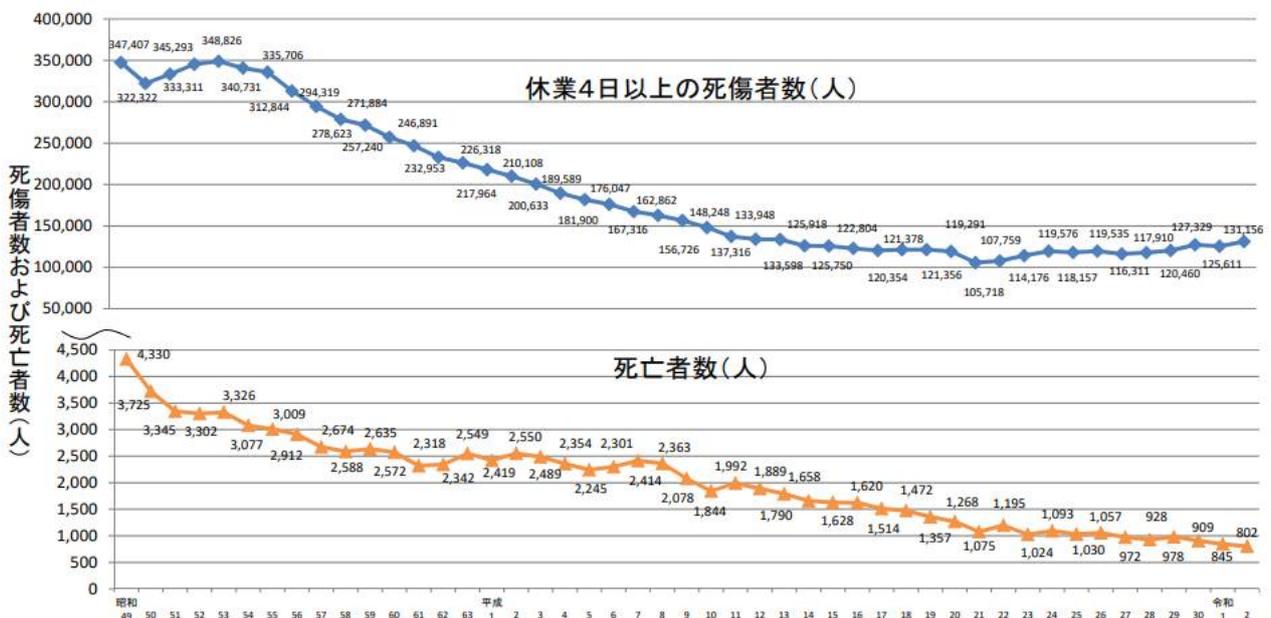
- 令和2年1月1日から12月31日までに発生した労働災害について、令和3年4月7日までに報告があったものを集計したもの
- 第13次労働災害防止計画において、平成29年と比較して令和4年までに死亡者数は15%以上の減少、死傷者数は5%以上の減少を掲げている。



建設業における死亡者数・休業4日以上の死傷者数は減少しています。
 一方休業4日以上の死傷者数は運送業・第三次産業で増加
 ※新型コロナウイルス感染症の影響

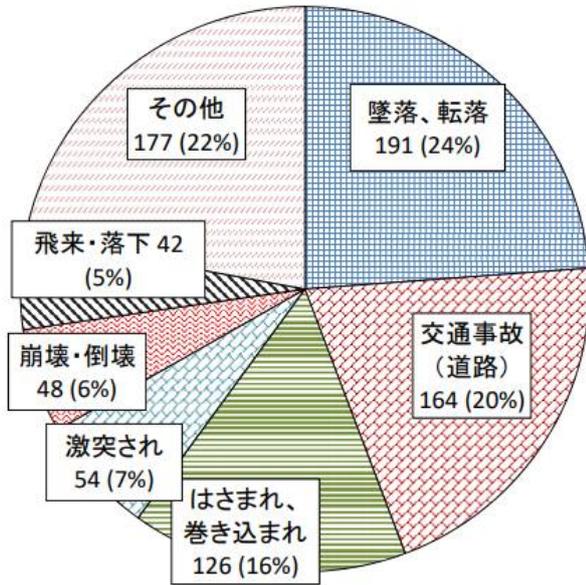
労働災害による死亡者数、死傷者数の推移

- ・ 死亡者数、休業4日以上の死傷者数ともに、長期的には減少傾向にある。
- ・ 死亡者数は、過去最少となった。
- ・ 休業4日以上の死傷者数は、近年、増加傾向にあり、平成14年以降で過去最多となった。



死亡者数

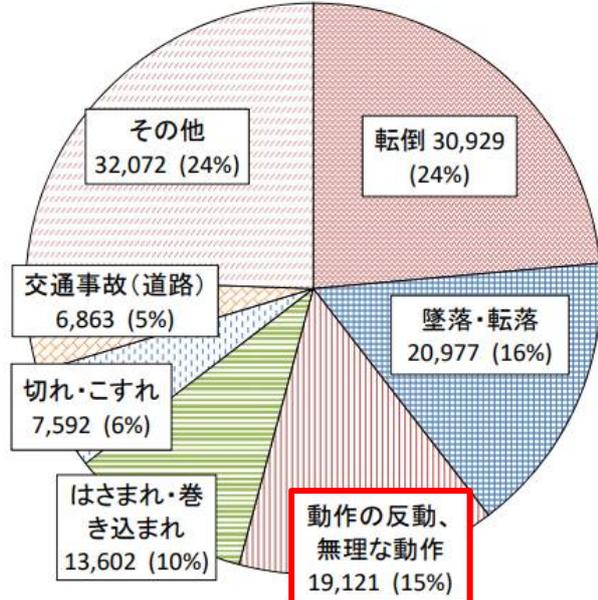
802人(前年比▲5.1%)



出典：死亡災害報告

休業4日以上之死傷者数

131,156人(前年比+ 4.4%)



出典：労働者死傷病報告

休業4日以上之死傷者数のうち「動作の反動・無理な動作」に関する事故は、
全産業で前年より約1,400件、うち建設業では62件増加。
また、転倒については83件増加しています。

業種別 死傷者数（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）

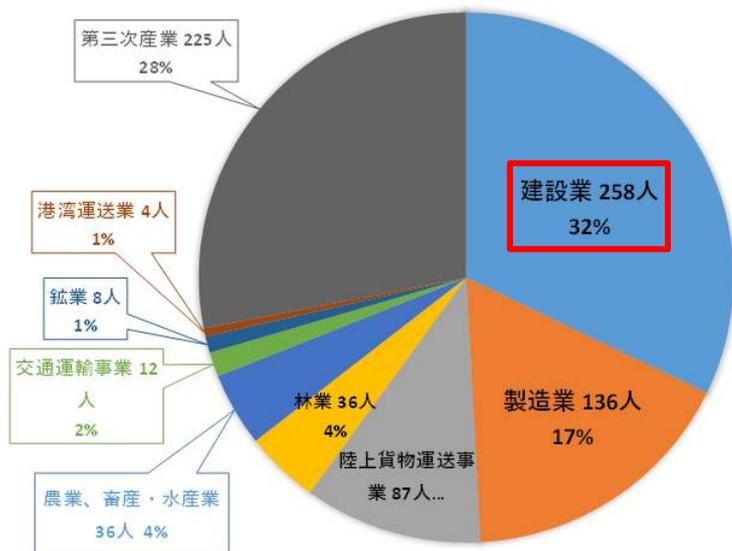
業種	令和2年 (新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)	令和元年	平成29年	対令和元年比較		対平成29年比較	
				増減数(人)	増減率(%)	増減数(人)	増減率(%)
全産業	125,115	125,611	120,460	-496	-0.4%	4,655	3.9%
製造業	25,330	26,873	26,674	-1,543	-5.8%	-1,344	-5.0%
建設業	14,790	15,183	15,129	-393	-2.6%	-339	-2.2%
陸上貨物運送業	15,669	15,382	14,706	287	2.0%	963	6.5%
小売業	15,257	14,666	13,881	591	4.3%	1,376	9.9%
社会福祉施設	11,667	10,045	8,738	1,622	18.6%	2,929	33.5%
飲食店	4,874	5,141	4,721	-267	-5.7%	153	3.2%

年齢別 死傷者数（新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く）

年代	令和2年 (新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除く)		令和元年		平成29年		対令和元年比較		対平成29年比較	
	死傷者数(人)	構成比(%)	死傷者数(人)	構成比(%)	死傷者数(人)	構成比(%)	増減数(人)	増減率(%)	増減数(人)	増減率(%)
～19歳	2,490	2.0%	2,680	2.1%	2,533	2.1%	-190	-7.1%	-43	-1.7%
20歳～29歳	14,939	11.9%	15,025	12.0%	14,770	12.3%	-86	-0.6%	169	1.1%
30歳～39歳	16,754	13.4%	17,434	13.9%	18,001	14.9%	-680	-3.9%	-1247	-6.9%
40歳～49歳	25,736	20.6%	26,463	21.1%	26,498	22.0%	-727	-2.7%	-762	-2.9%
50歳～59歳	30,953	24.7%	30,294	24.1%	28,631	23.8%	659	2.2%	2322	8.1%
60歳～	34,243	27.4%	33,715	26.8%	30,027	24.9%	528	1.6%	4216	14.0%

年齢別で見ると、50歳以上の死傷者数が年々増加しています。
「これくらい大丈夫だろう」と油断して無理な動作での作業を行ってしまった結果、
事故になるケースが多くなっています。
転倒についても同様の事故事例が多く見られます。

業種別死亡災害発生状況

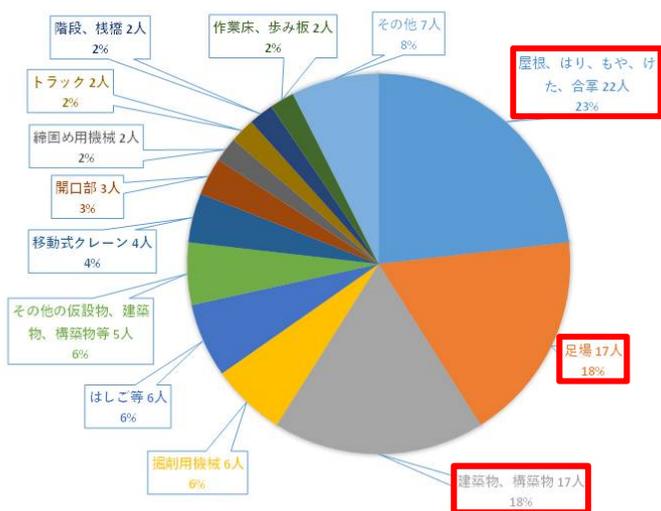


業種別の死亡災害発生状況では建設業が32%を占め、非常に高い災害発生状況となっています。

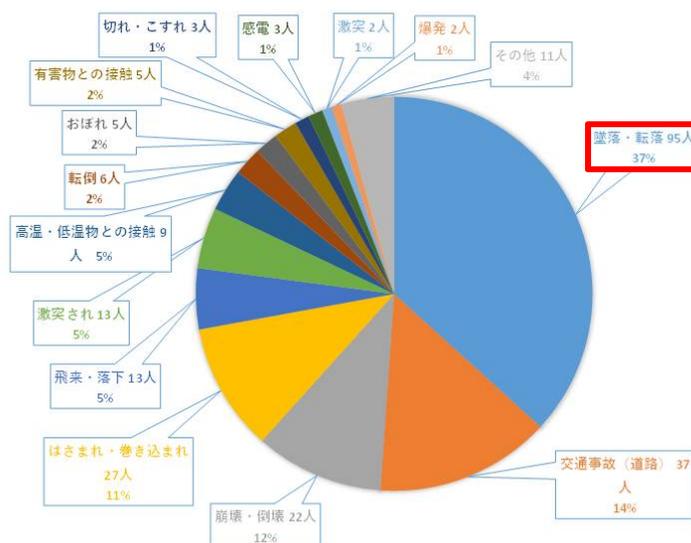
型別で見ると依然として「墜落・転落」が最も多く37%、そのうち事故の発生状況としては「屋根・はり・もや・けた・合掌」、「足場」、「建築物・構築物」で約6割を占めています。

フルハーネス型墜落制止用器具の使用が2022年（令和4年）1月から義務化となり、使用にあたっては特別教育の受講が必要になります。器具を着用するだけでなく、使用の徹底をしていくことが重要です。

三大災害発生状況 《墜落・転落災害》



事故の型別死亡災害発生状況



熱中症による死亡災害発生状況

	建設業	全産業	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月以降
令和2年	7 (32%)	22	1	0	4	16	1	0
令和元年 平成31年	10 (40%)	25	0	1	5	15	3	1
平成30年	10 (36%)	28	0	2	17	8	1	0

熱中症による死亡災害発生状況についても建設業では例年、全産業の4割程度を占めています。

死傷者数についても同様に4割となっており、その数は年々増加しています。

暑さが本格的になる7月・8月が最も多いですが、暑さに慣れていない6月から事故の件数が増え始めます。日々の体調の管理に加え、空調服の使用、こまめな休憩・水分塩分補給を行い、早い時期からの対策を行っていきましょう。

令和2年度（2020）安全パトロール状況

実施日		パトロール現場	指摘事項
1	1月16日	新河岸都住	是正指示事項なし。引き続き安全第一で現場運営をすること。
2	2月17日	新宿都住	①外部足場の巾木を設置すること。足場上の不要材は早期片付けをすること。 ②エントランスの立入禁止区画について、建屋内部側からアクセスできてしまうため、立入り出来ないように区画設置をすること。 ③消火器の安全ピンが外れているものがあるので、安全ピンを取り付けること。
3	3月16日	新河岸都住	是正指示事項なし。引き続き安全第一で現場運営をすること。
4	4月16日	新宿都住	①一階の建屋出入りの渡りステップについて、より安全に通行できるように布板を追加してステップの幅を広げること。 ②型枠建込み作業時に脚立の天板作業は禁止し、作業に見合った高さの脚立を使用すること。 ③エレベーター開口部の型枠が解体されたフロアは速やかに開口養生を設置すること。
5	5月18日	新河岸都住	①基礎外周の段差への墜落転落がないよう、注意表示やカラーコーン等による区画をすること。 ②基礎ピット内への昇降や移動のために使用する梯子は固定すること。
6	6月16日	新宿都住	①階段の本設手摺が付く前で、躯体と外部足場の隙間が出来ているため、安全標識による注意喚起をすること。層間ネットの状態も適宜確認すること。 ②使用していない脚立足場は速やかに撤去すること。
7	7月16日	正三ビル	①枠組み足場において、安全対策として妻側手摺は2段とすること。 ②外部階段とEVシャフトとの間が開口部となっているため、墜落転落防止対策として親綱の設置をすること。 ③EVシャフトの水平ネットの復旧をすること。
8	8月18日	正三ビル	①EVシャフトの足場において、荷揚げのために取り外した足場材は必ず適切に復旧すること。ブレース等を一時的に取り外す際には、取り外した部材の落下防止策を講じること。 ②型枠材を外部足場へ立て掛けていたため、仮置きの際は平置きすること。
9	9月16日	赤坂 テナントビル	①型枠支保工作業主任者の掲示がされていなかったため掲示すること。 ②資材が足場へ立て掛けられていたので、仮置きする際は平置きすること。 ③階段の型枠サポート上部の固定釘が不足している箇所の釘止め措置をすること。
10	10月16日	青葉中学校	①第二ゲート前の第三者侵入防止措置のバリケードが見受けられなかったため確認・対応すること。また、バリケード等を移動した場合は元の位置に戻すよう徹底すること。
11	11月16日	新河岸都住	①足場に掛けられている仮設雨どいは結束固定するか建屋内へ取り込みをすること。 ②EV開口養生が固定されてないものがあったので、固定すること。
12	12月16日	青葉中学校	是正指示事項なし。引き続き安全第一で現場運営をすること。

協会の皆様、現場担当者の皆様、有難うございました。指摘事項は全て是正されています。
今後も安全パトロールを継続して参りますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

熱中症予防 × コロナ感染防止で 「新しい生活様式」を健康に!

「新しい生活様式」とは：新型コロナウイルス感染防止の3つの基本である ①身体的距離の確保
②マスクの着用 ③手洗いの実施や「3密(密集、密接、密閉)」を避ける、等を取り入れた日常生活のこと。

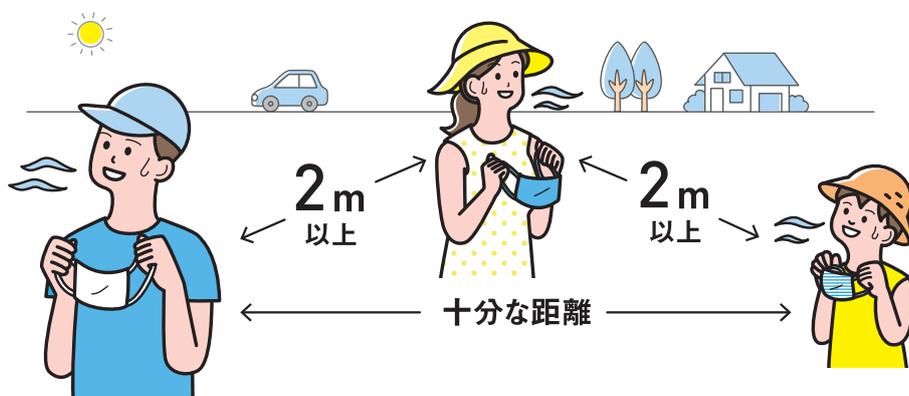
注意 マスク着用により、熱中症のリスクが高まります

マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなったり、気づかぬうちに脱水になるなど、体温調節がしづらくなってしまいます。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。



熱中症を防ぐために マスクをはずしましょう

ウイルス
感染対策は
忘れずに!



屋外で

人と2m以上

(十分な距離)

離れている時

マスクをしてると
熱中症になりそう...

〔 マスク着用時は 〕....



激しい運動は避けましょう

のどが渇いていなくても
こまめに水分補給をしましょう



気温・湿度が高い時は

特に注意しましょう



暑さを避けましょう

- ・涼しい服装、日傘や帽子
- ・少しでも体調が悪くなったら、涼しい場所へ移動
- ・涼しい室内に入れなければ、外でも日陰へ

のどが渇いていなくても こまめに水分補給をしましょう

・1日あたり
1.2L(1.2リットル)を目安に

1時間ごとに コップ1杯 入浴前後や起床後も
まず水分補給を

ペットボトル 500mL 2.5本 コップ約6杯

・大量に汗をかいた時は**塩分**も忘れずに

エアコン使用中も こまめに換気をしましょう

(エアコンを止める必要はありません)

注意 一般的な家庭用エアコンは、室内の空気を循環させるだけで、換気は行っていません

- ・窓とドアなど**2か所**を開ける
- ・扇風機や換気扇を併用する
- ・換気後は、エアコンの温度を**こまめに再設定**

暑さに備えた体づくりと 日頃から体調管理をしましょう

- ・暑さに備え、暑くなり始めの時期から、無理のない範囲で**適度に運動**(「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で**毎日30分程度**)

水分補給は忘れずに!

- ・毎朝など、**定時の体温測定**と**健康チェック**
- ・体調が悪い時は、無理せず**自宅で静養**

知っておきたい 熱中症に関する大切なこと

熱中症による死亡者の数は**真夏日(30℃)から増加**
35℃を超える日は特に注意!

運動は原則中止。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動してください。

■年齢別／熱中症死亡者の割合

15歳～44歳	2.5%	5歳～14歳	0.1%
45歳～64歳	15.6%	0歳～4歳	0.1%
65歳～79歳	33.7%	不詳	0.2%
80歳以上	47.8%		

出典：「熱中症による死亡数 人口動態統計2018年」厚生労働省

熱中症による死亡者の**約8割が高齢者**

約半数が80歳以上ですが、若い世代も注意が必要です。

■年齢・発生場所別／熱中症患者の発生割合

年齢	発生場所	割合
65歳以上	屋内	約80%
	自宅	約70%
19～64歳	作業中	約60%
	公共施設	約10%
7～18歳	学校	約50%
	運動中	約10%
0～6歳	その他	約10%

出典：「救急搬送データから見る熱中症患者の増加」国立環境研究所 2009年

高齢者の熱中症は**半数以上が自宅で発生**

高齢者は自宅を涼しく、若い世代は屋外での作業中、運動中に注意が必要です。

高齢者、子ども、障害者の方々は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。
周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。

